

短歌 (投稿順)

開校百五十年祝ぐわが母校校庭に諸を育てし日あり
 小5の吾子野に出て探すだんごむし幼き頃となんら変わらさず
 長兄今も読み書き好きで卒寿越ゆ日記帳には休肝日増す
 お前言ふ今この方がずっとイイひとりよがりのアウトローより
 部屋入れば着信サイン携帯に友より旅のさそいの言葉
 萌葱色あつとゆう間の濃い緑初夏の風さえ感じる日々よ
 夫といて両神山を眺めつ、昔を語る公園の椅子
 「百歳を目指しましょうよ」と気丈なる友の電話に励まされたり
 帰り道キッチンカーが止まりおるピザ二枚買ひ夕餉の膳に
 見渡せる景色は日々に移ろえる是ぞ不思議な自然界?
 不揃ひの路は日毎に丈伸ばし膳に添へたきこと思ひつつ
 散らばった破片と共に幾年の暮らしを拾う能登町の家
 蒲公英も盛りを過ぎて綿毛飛ぶポストの上に寂しく揺れて
 大食いテレビ番組見たあとで戦禍の子供餓死するニュース
 初ライブ7万人の歓声と鼓膜に残るVpの言葉
 車窓より手を振る友の見えるまで別れを惜しみしばし佇ずむ

三沢 眞下 杏子
 皆野 大澤 貴夫
 皆野 引間 万亀
 皆野 石原 達也
 皆野 戸塚喜久雄
 皆野 村田ハツ代
 皆野 萩原 初恵
 皆野 浅見 豊子
 下日野沢 藤原マキ子
 国神 新井 叶子
 三沢 新井 民子
 三沢 新井 昭廣
 皆野 打木 節子
 下日野 新井 節子
 上日野沢 四方田利男
 皆野 太幡琉美花
 皆野 根岸 詩子

俳句 根岸茉莉 選 投稿数 17句

背伸びして武甲吸い込む風青し
 (評)風も爽やかな五月晴れ。早起きをして庭に出た作者です。緑の濃くなった木々の向こうに、秩父のシンボル武甲山がどっしりそびえています。野山の生氣あふれる風を体中に取り込むように大きく深呼吸。今日も元気で楽しい日になりそうです。武甲吸い込むの表現がすごいです。二句目、戦争は人災ですが天災は人力ではどうすることもできません。二つの災害で地球の傷はますます広がっていくようで気がかりです。南方から長旅をして来た燕が軒で雛を育て、大空を自由にたくましく飛び交っている姿に癒された作者です。平穏な暮らしが続くことを祈りたいです。三句目、花の香漂う春の黄昏は童話の世界への誘いのようです。ゴンドラのような月に乗って宇宙を旅してみたくありません。素敵な光景に出会えた作者です。比喩に惹かれました。

繕えぬ地球の傷や夏燕
 三沢 新井 民子
 送別会一泊の宴芽木館
 皆野 根岸 詩子

黄昏にゴンドラの如春の月
 皆野 鳥 弘
 夏日なり厨窓開け滯の風
 下日野 新井 節子

谷川の水面は穏し花筏
 三沢 新井 叶子
 湧き水をすくう手の平新樹光
 国神 藤原マキ子

夕暮れの桜並木のラ・カンパネラ
 皆野 櫻井 早苗
 八重桜水面に揺らす花手水
 皆野 萩原 初恵

輝山句碑連れとなぞるや花の寺
 皆野 引間 千鶴
 四時めさむ一番烏半夏生
 皆野 石原 達也

国神 土屋 良彦